

## 転移性腎細胞癌における ALDH1 分画の発現と臨床病理学的因子の関連性と治療効果に関する検討

近年、様々な癌腫において癌幹細胞や癌幹細胞様細胞の存在が報告されている。癌幹細胞は高い薬剤抵抗性を持ち合わせており、再発や転移に関与すると言われており、新たな癌の治療標的と考えられている。現在、癌幹細胞マーカーの発現と病期や予後との相関が報告されており、様々な検討が行われている。様々な固形癌において、免疫組織化学において Aldehyde dehydrogenase 1 (ALDH1)陽性を呈する症例は不良な臨床予後を示すと言われており、これまでの我々の研究においても ALDH1 陽性を示す細胞集団に薬剤抵抗性や腫瘍形成能が高く、悪性度の高い細胞集団が含まれていることが腎細胞癌細胞株(ACHN)で示唆され、ALDH1 の発現を有する細胞集団に腎細胞癌の癌幹細胞様の特性を有する細胞が含まれていることを報告してきた。これまでも免疫組織化学における ALDH1 の発現は組織学的悪性度と相関することが報告されているが、予後との有意な相関は認められていない。近年の報告では、ALDH1 には様々な分画が相関しており、ALDH1A3 が癌幹細胞の特性を有することが他癌腫において報告されている。今回我々は、久留米大学病院泌尿器科にて切除された腎細胞癌症例の手術検体を用いて、腎細胞癌組織における ALDH1 分画の発現を免疫組織化学を用いて確認し、臨床病理学的因子および予後との関連性について検討する。これらの検討は、腎細胞癌における新たな biomarker を探索するものである。今後、腎細胞癌患者に対する予後規定因子の同定や治療戦略の一助となる可能性があり、腎細胞癌患者のベネフィットに貢献するものとなりうる。

### 参考論文：

Ueda K, Ogasawara S, Akiba J et. al. Aldehyde Dehydrogenase 1 Identifies Cells with Cancer Stem Cell-Like Properties in a Human Renal Cell Carcinoma Cell Line. PLoS ONE 8 (10): e75463, Oct. 2013